



2022.6.6

コンパッソ・ドーロとミラノサローネ国際家具見本市 共に歩んで60年

「Compassod'Oro (コンパッソ・ドーロ) 賞」の名誉ある評価や賞を得た250の作品の特別巡回展がエウロクチーナ、サローネ国際バスルーム見本市のホール間に展開されます。品格、発見、テクノロジー、デザイン、ビジネスカルチャー、習慣、社会性に基づいて構築された、比類のないイタリアデザインの物語を紡いできたのがこの賞です。

ADI (Association for Industrial Design / イタリア工業デザイン協会) が主催するコンパッソ・ドーロ賞は、イタリアのデザイン製品の価値と品質に光を当てたいという建築家Gio Ponti (ジオ・ポンティ) の理念から、1954年に設立されました。それぞれの時代の証と社会的、文化的表現を求め、ミラノサローネ国際家具見本市に出展している企業からは、素晴らしい受賞者が多数輩出され、その地図を描いてきました。本見本市はまさにコンパッソ・ドーロ賞のショーケースであり、多数の受賞作品がデザインされた当時の習慣、社会、現代生活の歴史を証言するものとして、認識されています。

ミラノサローネ国際家具見本市は第60回のセレブレーションの一環として、見本市の主役である出展者に対し敬意を払い、革新的な製品の品質の保証と誕生プロセスを来場者に伝える使命を果たしています。

建築家アレックスandro・コロomboとパオラ・ガルブリオによってキュレーションされたインスタレーションは、2つのセクションに分かれています。エウロクチーナとFTKのホール9と11で、キッチン関連製品をフィーチャーした「**Design in the Kitchen/ デザイン・イン・キッチン**」、そしてサローネ国際バスルーム見本市のホール22と24で、バスルーム家具などの「**Design in the Bathroom/バスルーム・イン・デザイン**」を開催します。

キッチンとバス、この2つのジャンルに特化してコンパッソ・ドーロの受賞者を展示するに至った理由は、ADIは今後、研究、革新、サステナビリティなど幅広い可能性を含め、この2つの分野に取り組むことを狙いとしているからです。全ての受賞者、受賞作はミラノのADIデザインミュージアムコレクションから、ADIによってキュレーションされています。

開催当初の受賞作の中には、非常に重要なキッチン製品が多く含まれています。これは当然のことで、キッチンは第二次世界大戦後の生活の復興のシンボルとなるスペースだったので。家具、家電製品、住宅設備、加熱機器、鍋類は、当時のデザイナーの革新的なアプローチの対象でした。キッチンは挑戦を試みる実験室になり、戦前には存在しなかった考え方や、

職人技でつくる高級キッチンというジャンルの可能性も発見しました。その頃のキッチンは家具よりも建築に関連していたのです。さまざまな機能を備えたまったく新しい空間が生み出されたのです。オープン、シンク、大理石のトップなど、それぞれは重くて動かすのも難しいパーツでしたが、デザインが進化するにつれて、独立したパーツではなく、キッチンの要素が完全に一体化できるシステムへと変化したのです。

【Design in the Kitchen/デザイン・イン・キッチン】

すべての世界文化に共通する哲学的アプローチで語ります。**地球、水、火、風、（固体、液体、変形、移動）**という原始的な要素で、来場者はキッチンやそこに備えられる家電や設備、パントリーからお鍋までの世界を体験します。家電製品が食材や素材を“モバイルオブジェクト”に変え、食器、そしてテーブルの上に並びます。**4つのテーブルで4つのストーリーが展開されます。**テーブルの上には、大きくて明るいテキスタイル製の「シャンドリア」が浮かびますが、物語のメインツールとして抽象的な大きな円を象徴的に選んでいます。

ディスプレイ全体は、吊り下げられたテキスタイル構造で、離れた場所をつなぐ長いストロールで構成されています。それぞれの場所のインパクトを一点に収束する効果を生み出します。各エリアは、特定のテーマを持ち、座る場所も用意されているので、**一休みして会話を交わす場**としても機能します。「大きな円」は、写真、建築、映画、漫画、広告ビジュアルの歴史から集められた展示や、文学や詩からの引用を伴うグラフィックを通して**展示された受賞作品の魅力**を具体的に伝えるショーケースとなります。

言うまでもなく折り紙付きの秀逸なキッチンは、料理の下ごしらえから食事するまでがハンディに作業でき、ワークトップには食材を飾るように並べられ、人々が集まるインターフェースのための場所となり、展示は自然に次のホールへと流れます。キッチンの展示からサローネ国際バスルーム見本市へつながります。

【Design in the Bathroom/バスルーム・イン・デザイン】

バスルームでもっとも**特徴的で意味のある存在としてバスタブが展示**されます。バスルーム空間の展示があり、その周りにすべての機器が配されています。キッチンと同様に、過去60年間でバスルームも大きく変化し、伝統的なウェルネスの場所およびステータスシンボルとしてバスルームに新しい付加価値が生まれています。機能は言うまでもなく、デザインと技術の進化も重要です。

バスルームの進化は、2つのアイランドスタイルで表現されます。一つはバスやシャワーなどに**どんなものがあるのか、どんな状態でお湯の中で過ごせるのか**。もう一つはそういったシャワーやバスの周りに**どんなアイテムがあるべきなのか**。シャワーやバスなど水を使うものと、そういった設備の周りの製品のコンセプトが、対話のように関わり合う構成



です。バーチャルな空間で水栓、ボイラー、洗面台、衛生陶器、サウナ、浴槽、ラジエーターは、文字通り画像の形で、吊り下げられたイルミネーションディスプレイに現れます。全ての展示製品は何らかの形で私たちの生活の質を向上させた製品です。特にバスルームは戦後、現代生活の品質基準を向上させる社会活動、別名イタリア合理主義によって研究され、提唱されました。衛生環境や、換気など注意深く進化させたことで、家庭生活の質が向上したのです。

この巡回展は、ミラノサローネを祝う併催イベントの1つであり、基本的には、イタリアの優れたデザイン作品、それらを製造した企業、およびその夢を描いたデザイナーへの正当な賛辞です。また、さまざまな形のデザインをたどり、社会の大きな変化をどのように示したかを振り返り、独自の発明、ポキャブラリー、コンテンツで新しい文化的な認識に作用します。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it